

家畜衛生だより

R5年度
1回目

牛ウイルス性下痢(BVD)のバルク乳検査を実施します

BVDは全国的に発生が確認され、県内でも令和3年度のバルク乳検査において持続感染牛(PI牛※)が摘発されています(令和4年度は全検体が陰性でした)。

※ PI牛：妊娠牛がBVDに感染した場合、感染時の胎齢によっては子牛が生涯にわたってウイルスの保有と排出を続けることがあり、これを持続感染牛(PI牛)とよんでいます。PI牛は明確な症状を示さない場合があるため、新たな感染源となる可能性があります。

今年度もPI牛を早期に発見するため、バルク乳を用いたスクリーニング検査を実施します(無料、年2回予定)。第1回については以下のとおりです。

- ✦ 検査日程：令和5年8月1日(火)
- ✦ 検査材料：バルク乳(クーラーステーションにて採材)
- ✦ 検査方法：遺伝子検査

※ 第2回の検査は令和6年2月を予定しています。

◎ BVD対策について

① 定期的な検査の実施

今年度も定期検査・臨時検査とバルク乳検査を実施予定です。感染拡大の原因となるPI牛の早期発見や農場の清浄性確認をしましょう。

② ワクチン接種

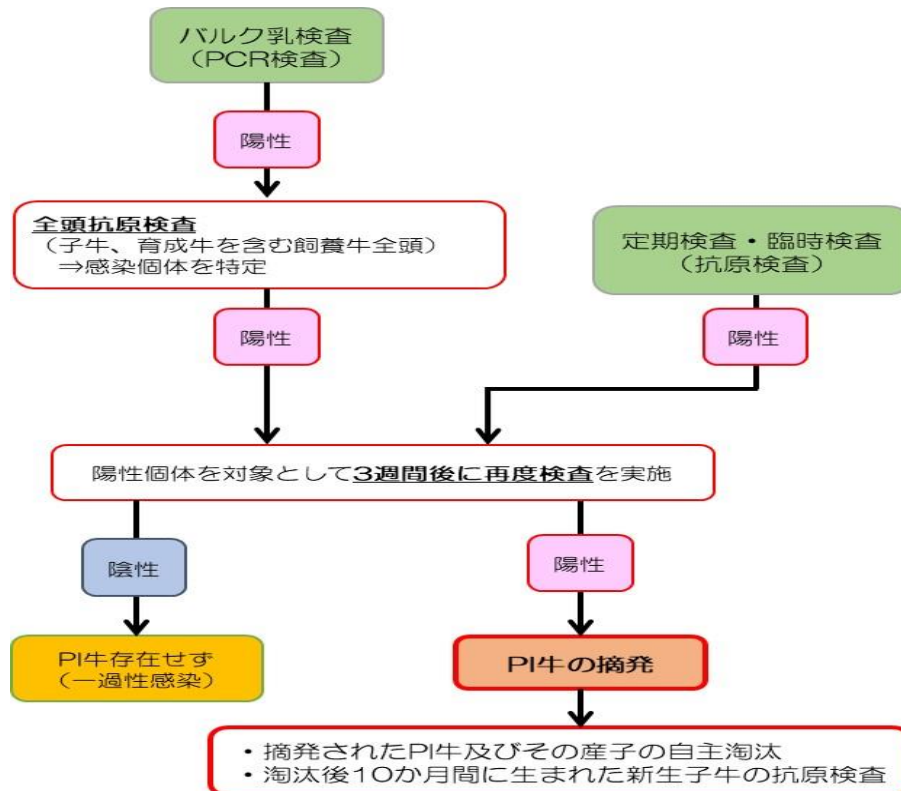
感染予防にはワクチンが有効です。BVDワクチンには不活化ワクチンと生ワクチンがあります。妊娠牛に生ワクチンを接種すると胎仔がPI牛となる可能性があるため、その場合は不活化ワクチンを接種しましょう。

◎ 万が一検査で陽性となった場合は？

定期検査・臨時検査では抗原検査(ELISA検査)、バルク乳検査では遺伝子検査(PCR検査)を行います。それぞれ陽性となった場合はPI牛を摘発するためにさらに以下(裏面)の流れで検査を行います。

裏面へ続く

バルク乳検査の流れ



家畜伝染病侵入防止のため、防疫対策の再確認、再徹底をお願いします！

- **車両消毒**の徹底、交差汚染の防止
特にと畜場、化製場、家畜市場など畜産施設に出入りした際は、消毒を徹底
- **畜舎専用衣服・靴**の着用
- 農場・畜舎へ入る際の**手指の消毒**
- 畜舎・器具のこまめな**清掃、消毒**
- **野生動物との接触・侵入防止対策**の徹底
ネズミ、昆虫の駆除、豚舎外壁の補修、防護柵・防鳥ネットの設置等を徹底
- 毎日の**健康観察と早期発見**及び異常時の**早期通報**
- **口蹄疫等の発生地域、非清浄地域**への**不要不急の渡航自粛**
- 外国人技能実習生等の外国人従業員を受け入れている場合は、日本への持込みが禁止されている**肉製品等**が母国を含む**海外から**の携帯品、国際郵便物等によって**持ち込まれることのないよう**、当該従業員等への**周知徹底**



埼玉県中央家畜保健衛生所 (さいたま市北区别所町 107-1)

TEL:048-663-3071

(24時間、土日祝日も受付)